



5月26日の土曜日に、今回で第30回目となる平成24年度昭和大学公開講座(前期分)が富士吉田キャンパスにおいて開催されました。「暮らしと健康」をメインテーマとするこの講座は毎回2人の方に講演をさせていただいておりますが、今回は、初めに「美味しく安全に食べるために一肥満や窒息事故を予防する食べ方」と題して昭和大学歯学部口腔衛生学教授の向井美恵(よしはる)先生、次いで「地下のリサイクル工場特別見学会—案内役土壌動物—」と題して元森林総合研究所多摩森林科学園主任研究員の新島溪子先生に講演していただきました。この日は富士吉田キャンパスにおいて日本土壌動物学会も同時に開催されており、学会の公開講座と昭和大学の公開講座を共同で行いました。2番目の講演者である新島溪子先生は学会の大会長もなさっており、講演のあった教室の向かいの教室では一般の方向け

に土壌動物の写真展示もありました。今回は71名の方が受講されましたが、講演の合間には写真展示も興味深そうにご覧になっておられました。向井先生はユーモアを交えながら、「五感」を意識した食べ方の必要性をお話になりました。また、新島先生は小さな土壌動物がいかに大きな働きをしているかについて熱心にお話になりました。どちらの先生も楽しく分かりやすく講演され、講演後は熱心に質問に答えておられました。講演後のアンケートでも、楽しい講義でわかりやすかったという感想が多く寄せられ、内容にも多くの方が関心を持たれた様子がうかがえました。

数学 高木利一

オープンキャンパス

寮祭で盛り上がる6月24日(日)、オープンキャンパスが同時開催されました。当日は例年を大きく上回る約500名もの参加者が富士吉田校舎に足をお運びくださいました。ご参加の皆さんは自家用車やバスで到着後、キャンパス内で一年生が行っている模擬店を覗いてみたり、模擬授業で大学の講義を体験してみたり、食堂の昼食体験に舌鼓を打ってみたり。その中でも特に毎回人気があるのは、受験生の皆さんと一年生との相談コーナー。やはり本学をめざす学生さんにとって入試に向けての傾向と対策や実際の寮生活の話は興味津々。将来の先輩となる一年生から話を聞くことのできるチャンスとあって、会場では多くの質問が飛び交っていました。

一方の全体説明会会場では小出良平富士吉田教育部長の挨拶の後、倉田知光教育推進室長による富士吉田校舎の概要および初年次教育についての説明、学生代表の薬学部1年生・田中大貴くんによるキャンパスライフについての体験談があり、どなたも熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

今回オープンキャンパスにご参加くださった皆さんが、来春、この富士吉田校舎で学生生活をスタートすることができますよう心より願っております。

事務課 渡辺 脩



富士吉田では肌寒さを感じるころのある梅雨の時季を過ぎ、季節は遂に夏本番、学生たちの待ち望んだ夏期休暇に入ります。ようやくおとずれた休暇を家族や地元の友人たちと過ごすなど、リフレッシュした状態で9月より始まる後期日程を迎えてください。

『白樺・百合』は今回、学生入学・入寮から6月末の寮祭までと、記事となるイベントには事欠きませんでした。次号は、後期早々におこなわれる初年次体験実習をメインの一つとする予定しております。次号も手にとってご覧いただけるような誌面となるよう、編集委員一同で努めます。ご期待ください。

編集委員 高田中成

植樹活動について

富士吉田ロータリークラブと昭和大学が合同で行う植樹活動ならびに同窓会および富士五湖地方の昭和大OBの方々から寄贈された桜の植樹が、5月13日行われました。ロータリークラブとの活動は、昨年震災の影響で中止となりましたが、これまでもパインズパークでの植花活動など毎年行っているものです。今回は富士吉田ロータリークラブの方々が20名、中央委員会の学生50名と教職員11名が参加しました。事前に掘られた穴まで3~4mほどのナシの木を運び埋め戻す作業や、バケツで水をくんで水をやるなどの役割を分担して行いました。作業終了後は抜けるような青空の下、球技場内の芝の上で雪を抱いた富士山を仰ぎ見ながらお弁当を味わい、午前は終了しました。午後は校舎に戻りOBを代表してご来校いただいた山梨日赤病院院長今野述先生、富士吉田市立病院副院長高橋正一郎先生のご臨席のもと、中庭で桜の苗木を植え記念写真を撮り解散となりました。

これまで昭岳舎球技場の周りにはほとんど日陰がなく、暑い日でも練習合間に休むスペースもなかったため、これから木が育ち木陰が出来て学生をはじめとして昭岳舎利用者の憩いの場となることが期待できます。また富士吉田では新入生が入寮してから桜の満開をむかえることから、来年からの新入生の目を楽しませてくれるでしょう。

富士吉田教育部 地域交流委員会委員長 堀川 浩之



白樺百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第16号 2012.7.23 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 小出良平
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 倉田知光
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



医学部 長井尚哉(愛知県立岡崎高等学校出身) 撮影

着任のご挨拶

富士吉田校舎事務長 佐藤 誠



4月1日付で長津田校舎事務長から富士吉田校舎事務長に就任いたしました。

長津田校舎勤務の前は、旗の台校舎教務課に在籍していましたので、ここ10年ほどは、教学事務に携わっています。教学事務に従事してからは入寮式、オープンキャンパスや父兄会などで富士吉田キャンパスを訪れる機会も多くありましたが、いずれも1日からせいぜい数日の滞在日数であり、豊かで、時に厳しい自然環境や初年次教育の実際に関わることはありませんでした。着任してまだ3カ月ですが、こちらは、旗の台キャンパスや横浜キャンパスと比べて教職員と学生との関わり方が強い、あるいは深いという印象をもちました。当然ながら全寮制度という環境の中で勉強ばかりではなく、生活の面でも学生を支援していく、という意識が高いからなのだとあらためて感じています。

さて、今年の3月に文部科学省の諮問機関である中央教育審議会大学分科会がひとつの審議のまとめを発表しました。

これによりますと、今後は、学生に対して予測困難な時代を生きていく力をつけさせるための学士課程教育が必要であるとして、『生涯学び続け、どんな環境でも答えのない問題に最善解を導く能力を育成し、知的な基礎に裏付けられた技術や技能を身につけることができる大学』が望まれ、このために『学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与え合いながら知的に成長することができるように、学生の思考力や表現力を引き出し、その知性を鍛える双方向の課題解決型の能動的な授業を採り入れた教育に質的転換を図ることが重要である。』とされました。

本学では、ここ富士吉田キャンパスから始まる全寮制生活や学部連携教育において学生が相互に刺激を与えあえる環境があり、PBL(問題基盤型学習)による課題解決型の教育が体系的に行われています。更には「昭和大学宣言」には、生涯学習・研究を自覚させる内容が盛り込まれる等、審議会の結論を既に反映した教育システムが導入されていると考えられます。

しかしながら、審議会では、これらの質的変換を効果的に推進するために不可欠なものとして、教育職員の質的向上が必要であることや、学生自身が授業に臨む際の事前学習・準備、授業後の復習などの時間を含めた学習時間を増やすこと等にも言及しています。

大学生生活のスタートとなる富士吉田キャンパスにおいては、学生に自学自習の習慣を身につけさせることが、今にも増して重要なことになってくるものと思われまます。

社会状況や時代と共に変化する教育制度や内容への対応、あるいは富士吉田キャンパスの管理・運営について全職員一体となって進めて参りたいと思っておりますので、ご指導・ご協力をお願い致します。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

寮祭

寮祭実行委員長 歯学部 野口智世 (女子聖学院高等学校出身)

本年度の寮祭は、「笑輪〜」というテーマをもとに創りあげられました。「笑輪」と書いて「しょうわ」と読むこのスローガンには、ご来校くださった皆さんに寮祭に参加していただき、笑顔の輪を作りたいという思いが込められています。スローガンを目標とし実現するために、寮祭実行委員の部門長を筆頭とし、中央委員、各部門委員それぞれが各仕事に励んできました。私達は準備期間から当日を含め、作業中に他の人びとと関わることで活動の幅を広げることができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。その結果としていろいろな人の輪を広げることができ、私達自身も目標に一步近づけたと思います。このように築き上げた学生のチームワークが皆さんにも伝わり、全員で笑顔をつくっていたら幸いです。

今年の寮祭期間中の天気予報は、曇り一時雨とあまり芳しくないものでした。それゆえに、前日まで実行委員会はこちらの心配、音響業者の方、事務課の方とも、晴れ・雨・晴れ→雨・雨→晴れの各パターンをシミュレーションしておりました。しかし、いざ当日を迎えたところ、二日間共に快晴で気温も30度を超え、真夏のような陽気のもとで寮祭を開催することができました。梅雨にもかかわらず、夏祭りのような活気があり、大盛況だったと思います。

また、本年度のテーマである「笑輪〜」にちなんだことを形に残したいと思い、寮祭後に全校生徒を招集し、人文字で笑の字を作りその周囲を輪で囲んだところを上空から写真に収め、「笑輪〜」というテーマを表すという企画を行いました。この企画中に学生同士の良き交流が伺え、人とのつながりの素晴らしさを実感し、このテーマをもとに寮祭を終えることができ良かったと実感しました。

最後になりましたが、寮祭を実施するにあたって協力してくださった先生方、父兄の皆様、先輩方、事務課の方々、食堂の方々、地域の皆様、ポイラー関係者様、そして実行委員一同に感謝いたします。ありがとうございました。



体育祭

体育祭部門長 歯学部 中田雅昭 (國學院高等学校出身)

寮祭の幕開けとなるのが体育祭。その部門長をやることになり、引継ぎ資料のないなかで部門員とともに手探りで進んでいきました。

最初は種目を決めることとルールを決めることに苦労しました。どんな種目をやれば全員で盛り上がることができるのか、どんなルールであれば公平に競技が行われるかなど考えることはたくさんありました。何度も部門員を集め再考を繰り返して選ばれた競技が騎馬戦と棒とりでした。参加人数が多く盛り上がること間違いのないと意見が一致したときは、少しほっとしました。競技が決まってからは勢いに乗って各色の名簿作り、ルール、一種目の参加人数、対戦表、必要な物品の買出しなど、スムーズに行うことができました。すべてがそろい当日の動きの確認だけになったのは寮祭一週間前であり、時間に余裕を待つことができました。残りの日数で何度も当日の動きを部門員とともに確認しましたが、570人という大人数を動かすので最後まで不安を拭き去ることはできませんでした。

迎えた当日の天気は曇り。校庭のコンディションは悪くなかったので予定通り晴天のプログラムで動くことにしました。副部門長が開会宣言を告げ競技開始のアナウンスが流れるといよいよスタート。棒とりから始まり想像以上の部門員のスムーズな動きと生徒の誘導に感動しました。棒とりが予定より30分も早く終わり騎馬戦の回戦数を増やすことができ、体育祭はさらに盛り上がりました。最後にもう一人の副部門長からの結果発表により1位・紺、2位・黄、3位・ピンクという結果で体育祭を無事に終わることができました。部門員たちと協力して作り上げた体育祭は最高のものとなりました。



寮祭風景・入寮式

新入生歓迎会

振り返ること早3ヶ月前の4月9日、新入生が富士吉田キャンパスの各寮に入寮しました。こちら富士吉田校舎は年間をつうじての気温が北海道札幌市とほぼ同程度ということもあり、4月上旬でもまだ肌寒い陽気でした。

入寮してすぐに第一講堂で教職員の紹介、片桐学長や小口理事長によるアイデンティティ教育が行われ、新入生たちは熱心に耳を傾けると同時に、一人一人が今日から昭和大学の一人として気を引き締めている表情が印象的でした。

4月14日土曜日、新入生歓迎会およびウェルカムパーティーが開催されました。歓迎会では昨年度の富士吉田校舎中央委員長の中川由加里さんをはじめとする上級生から富士吉田校舎の過ごし方についての体験談が話され、新入生は熱心に耳を傾けていました。その後、グリークラブによる指導のもと新入生全員が校歌を斉唱し、応援指導部から新入生に対して激励のエールが送られ、閉会となりました。

また同日夕方からはウェルカムパーティーが開催され、部屋コン毎に集まったテーブルでは入寮から一週間を経た学生同士で談笑する様子が見られたばかりか指導担任、上級生との交流も活発に行われ、大変有意義な会となりました。

事務課 渡辺 脩



オリエンテーリング

今年も初夏の日差しが眩しいなか、オリエンテーリング大会が開催されました。例年とは異なり今年は午後スタートに変更となったので、昼食前後に部室棟前に集まり、各々の学生がバスに分乗して現地の鳴沢村「富士緑の休暇村」へ向かいました。

学生は入学後約1ヶ月間が経過し、ある程度お互いのことが分かり始めている時期ではありますが、このイベントを通じてさらに部屋コン内での結束が強くなったり、キャンパス以外で指導担任とふれ合うことでお互いの意外な一面が理解できたりします。

この大会では、毎年部屋コン毎の接戦がくりひろげられますが、とりわけ熱い想いの指導担任の先生方など、学生たちを叱咤激励しつつ学生以上に頑張るあまり、約6キロもの距離を一緒になって歩く姿も見られます。また、コース分岐点でのアドバイスなども適宜おこなっています。とはいえ学生の行動は様々で、本人たちの勝負に対するこだわりや指導担任の意を汲もうとの思いから全力でタイム

レースをする部屋コンもあれば、富士山を背景に皆で写真を撮り豊かな自然に浸りながら楽しくのんびりコースを回る部屋コンもありました。最下位のチームは、スタート後2時間50分を経過してゴールしました。

各々の結果はともかく、部屋コンというグループ単位でおこなうオリエンテーリングにより、全ての学生にとってひとつの目標に向け結束する力が高められたことと思います。

編集委員 高田中成

(注) 部屋コン：昭和大学では指導担任制度をしており、各教員が1グループ19~24名の学生の担任となってきめ細かい指導を行っています。このグループの通称が「部屋コン」です

